

## 芸術学研究科

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 令和7年度以前入学者

日本大学大学院芸術学研究科では、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」能力に基づく、芸術・文化全般に対して国際的視野を備え、本研究科の修了要件を満たした者に、学位を授与する。

博士前期課程では、文芸学、映像芸術、造形芸術、音楽芸術、舞台芸術各専攻の修了要件を満たし、各研究分野における理論と歴史を専門的に探究する力を持ち、問題を自ら解決するために、芸術の研究と表現を磨き、その能力を社会に生かす姿勢を持つことが、課程修了の基準である。

博士後期課程では、芸術の研究者、創作者として自立するための高度な専門的知識と能力を身につけ、独力で新たな研究、創作の問題を見出し、解決させ、社会に貢献できるようになることが、課程修了の基準である。

#### 令和8年度以降入学者

日本大学大学院芸術学研究科では、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」能力に基づく、芸術・文化全般に対して国際的視野を備え、本研究科の修了要件を満たした者に、学位を授与する。

博士前期課程では、研究活動を主題（論文コース）として、教育理念・目標に応じた高度で専門的な教育課程において所定の単位を取得し、個人の研究計画・研究内容に基づき修士論文を提出し、審査及び口述試験を経て、各研究分野における理論と歴史を専門的に探究する力を持ち、問題を自ら解決するために、芸術の研究と表現を磨き、その能力を社会に生かす姿勢を持つことができる者に、**修士（芸術学） = Master of Arts**の学位を授与する。

創作活動を主題（制作・作品コース）として、教育理念・目標に応じた高度で専門的な教育課程において所定の単位を取得し、個人の研究計画・研究内容に基づき修士制作・作品（演奏、上演を含む）を提出し、審査及び口述試験を経て、創作の先にあるアートビジネスと結びつく思考探究による自己プロデュース能力を養い、自身の創作活動に関連するリサーチの結果を副論文として提出することで、自身の作品を理論的に説明することができ、その能力を社会に生かす姿勢を持つことができる者に、**修士（芸術） = Master of Fine Arts**の学位を授与する。

学位が授与されるにあたり得るべき学修成果は以下のとおりである。

D P 1：各自の専門分野における高度で専門的な芸術理論・歴史の知識を身につける。

D P 2：専門分野における高度な研究能力、論理的思考力および創造力を培い、自律的に研究を遂行できる能力と問題解決能力を身につける。

D P 3：幅広い視野にたち、隣接芸術領域における関連する芸術理論・歴史の知識を身につける。

D P 4：芸術の歴史のなかで各領域の果たしてきた役割と社会における意味を総合的に論考し、今日の芸術的状況を認識する能力を身につけるとともに、「アート思考」を養い、アートと社会の関係性を考え、専門的知識や技術を社会で応用し、新たな芸術創造と活動に貢献できる力を身につける。

博士後期課程では、芸術の研究者、創作者として自立するための高度な専門的知識と能力を身につけ、独力で新たな研究、創作の問題を見出し、解決させ、社会に貢献できるようになることが、課程修了の基準であり。博士論文を提出して最終試験及び口述試験を経て、所定の単位を取得した者に対して**博士（芸術学） = Doctor of Arts**の学位を授与する。